

第5回岩手・宮城内陸地震に係る山地災害対策検討会 議事要旨

1 開催日時：平成20年8月15日（金）13：00～16：00

2 開催場所：大崎市ふるさとプラザ3階大会議室（宮城県大崎市）

3 議事

（1）各流域の対策方針（一迫・産女川上流域を除く）

（2）荒砥沢ダム上流地すべりの課題整理2

4 主な検討結果・報告及び委員の発言内容

（1）各流域の対策方針（一迫・産女川上流域を除く）

- ・二迫川上流のヒアヒクラ沢の上部で確認された亀裂について、モニタリングを継続する必要がある。また、湛水量が以前より増えたシヅミクラ沢については、湛水した箇所対策を行うとともに、崩壊土砂の流出を抑制する谷止工などが必要である。
- ・三迫川上流では、駒ノ湯上流のドゾウ沢や、行者滝周辺に土砂流出抑制のための治山ダムを施工するほか、耕英地区でみられる不安定土砂について、床固工や山腹工などにより安定化していくことが必要である。
- ・磐井川上流では、大きな岩塊が崩落しているものの、河道は形成されており、ある程度安定した状態でとどまっていることから、事業採択された対策等を着実に進めることによって流域の安全が確保されると考えられる。
- ・胆沢川支流の尿前沢では、下流にある既設の治山ダムが効果的に機能している。

（2）荒砥沢ダム上流地すべりの課題整理2

- ・荒砥沢地すべり上部の亀裂について、日ごとの拡大幅は以前よりも少なくなっている。
- ・荒砥沢地すべりについては、巨大な地すべりであるが、いくつかのブロックごとの動きに分化した動きをしており、個々の動きを的確に捉える必要がある。
- ・地すべりの末端位置と排土位置の関連を明らかにした上で、ダム湖に流入した土砂の排土を検討すべきである。

以上